



くすりと健康

● 神戸市薬剤師会 ●

黒い便と赤いおしり

病院でもらう薬や市販のビタミン剤などを服用すると、便や尿の色が変わることがあります。これを知らないで、便や尿の変化に驚き、必要な薬を途中でやめてしまうことになりますので、どのような薬を服用すると便や尿の色が変化するのか、知っておく必要があります。

薬によって便や尿の色が変化する場合、大きく分けて次の二つのパターンがあります。

一つ目は、薬そのものが尿や便に排せつされるときに色が付いたり、通常は酸性の尿が、薬によってアルカリ性に変化するために着色するパターンです。この変化は一時的な変色であり、体にも悪影響はありませんので、心配いりません。

二つ目は、薬が体に悪い影響を及ぼして病気や障害を引き起こしている

場合です。この場合は薬の服用を一度やめ、様子を見る必要があります。服用をやめても便や尿の変色が続く場合や、ほかにも体調異常をきたすなどの症状がある場合は、医師の診断を仰ぎ、問題が無いかを確かめるようにしてください。

問題の無い変色の例には、次のようなものがあります。

○貧血薬（鉄剤で便が黒色に変色）
○ビタミン剤（B2で尿が黄色に変色）

○便秘薬（センナ・大黄などで尿が黄褐色・赤色に変色）

○糖尿病薬（末梢神経障害の薬で尿が黄褐色・赤色に変色）

○咳止め（オレンジの粉薬・白いシロップなどで尿が赤色に変色）

この中で、ビタミンB2は市販のドリンク剤などにも含まれていますし、病院でもよく処方される薬ですので、ご存じの方も多いいと思います。注意しなければならぬのは、便

が白く変色した場合です。これは、胃薬（乾燥水酸化アルミニウムゲル）を服用した場合にも見られる変化ですが、ロタウイルスによる下痢の場合も便が白色に変色します。また、風邪などの発熱時に使用した解熱用の坐薬が吸収されずに、形が崩れて便と一緒に出てきた場合にも、便に白色の部分が混じります。

また、黒く変色した場合も、貧血薬などの鉄剤を服用した場合のほか、消化管（特に胃や食道など上部）から出血がある場合も考えられます。特に、鉄剤を飲み始めたときには、吐気などの胃腸の副作用を伴うことも多く、胃腸に異常があると考えがちですので、注意が必要で、消化管の出血による黒色便と鉄剤による黒色便は、便の性状に違いがありますので、鉄剤を服用して便が黒く変色した場合は、かかりつけの医師、または薬剤師にご相談ください。